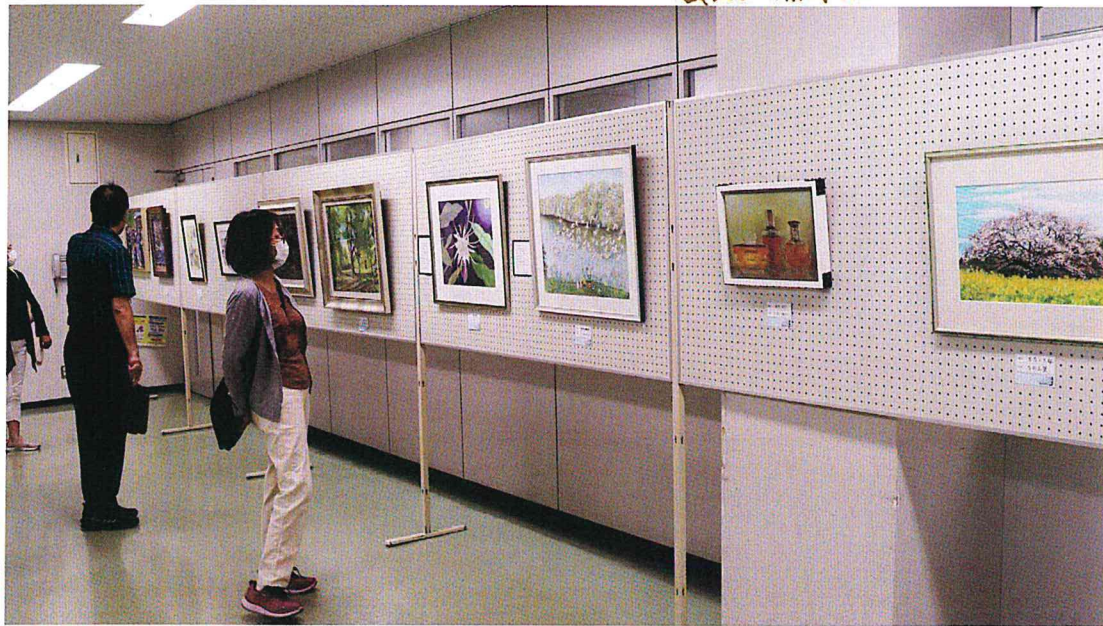




印西絵画展風景（印西市立中央駅前地域交流館）



第二十四回 印西絵画展実施

平素より印西市芸術文化協会岩井義春会長を始め会員の皆様方には、市の芸術文化の振興に多大なるご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

芸術文化活動は、一人ひとりの個性を育み、感性を磨き、生きる喜びや感動を与え、人の心を豊かにし、私たちの生活に多くの潤いを与えてくれます。

貴協会におかれましては、貴重な発表・鑑賞・体験の場である市民文化祭の開催をはじめ、文化ホールや公民館等における地域に根差した幅広い文化事業を展開頂いていることに、深く感謝の意を表します。

市といたしましても、皆様と対話を重ねながら引き続き「文化・芸術活動の推進」に努めてまいります。

今後とも、貴協会の皆様が、充実した活動を展開され、地域の文化発展の原動力となり、多くの市民の皆様が感動を与えていただけることをご祈念いたします。



印西市長 藤代 健吾

印西市芸術文化協会は加入十四団体が、市民文化祭の主管団体としての活動をはじめ、市の文化活動の振興と次世代への継承を目標として、企画運営に励んでおります。

今年令和七年四月に、かねてより各種事業の拠点の施設として希望していた、『コスモスパレット印西』がニュータウン地区に新装開館致します。大小のホールやギャラリーなど各種の文化活動の機能を備え、幅広いイベントの開催が可能のため、是非ご来場のうえ施設の利用を体験されてはいかがでしょうか。

近年社会での高齢化が進んで参りましたが、当協会においても顕著になってまいりました。文化の継承の観点からも、新たな若い力を切望するもので、多くの力を結集し創意工夫の活動により、芸術文化の魅力を伝えられるよう努めてまいりたいと思っておりますので、市民の皆様方の御支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



印西市芸術文化協会 会長 岩井 義春

コスモスパレット内覧会に参加して

絵画協会 横山 護

中央駅前地域交流館は四月から1号館、2号館の呼称がパレットⅠ、パレットⅡになります。令和七年一月に行われた内覧会は利用団体と芸文協の参加を希望する四十六団体が三班に分かれて二日間の日程で行われました。

今回の一番の目玉は、三百名収容のホールと印西市初のアートギャラリーです。前者はホールでの舞台芸術はもちろんですが、多目的用途になっていて、椅子を寄せると15×15位のスペースになり、向かいのギャラリーと合わせた大きなイベントもできるようなっています。その他関連施設の楽屋1、2、リハーサル室、ミニホール1、2、バンドスタジオ1、2等がワンフロアにあり、今後の利用の広がりが見込めると感じました。

アートギャラリー1、2は思っていた以上にこぢんまりしており、印西絵画展では利用の仕方に工夫が必要でしょう。ただ、移動可能な置きパネル二〇枚が用意されているので、その有効利用がポイントになりそうです。サークル単位の展示では十分な広さだと思えますので多くの利用が期待されます。ギャラリーとして一番の問題点はスポットライトの数が少ないことですが、本格的に利用が始まれば、個々に問題が当然出てくるでしょうから、これをどう解決し、より良いコスモスパレットにしてゆくか、利用者の我々が意識を高くもって、市に提案する必要があります。



第29回 令和6年度 印西市民文化祭 開催

2024年10月23日～11月30日 芸術文化協会会員および印西市民の参加による文化祭が5会場にて開催され、多くの参加者で盛り上がりを見せました。



文化ホール（歌謡、民謡、舞踊、邦楽、能楽、園芸・陶芸他）



イオンホール（書道、絵画）

イオンガーデンコート（茶道他）



中央公民館（俳句、短歌大会）

総合福祉センター（囲碁、将棋大会）

印西市芸術文化協会 14 団体 各会長連絡先

囲碁連合会	高野 博	(46-0488)	書道協会	岩井 義春	(42-6425)
園芸文化協会	青柳 文明	(42-3618)	短歌連盟	本間 百々代	(97-2659)
絵画協会	横山 護	(46-1688)	能楽連合会	三城 康照	(42-7474)
華道連盟	大野 容子	(42-2710)	俳句連盟	柴崎 悦男	(46-0480)
歌謡連合会	稲村 清子	(42-3128)	舞踊協会	和田 敏子	(46-3523)
茶道連盟	五十嵐 まゆみ	(42-2246)	邦楽邦舞協会	渡邊 俊子	(47-3721)
将棋連合会	大脇 孝夫	(46-4020)	民謡連合会	伊藤 敦子	(46-1691)



民謡連合会

齊藤 詔一

令和六年度の活動は、二大行事である六月九日(日)民謡民舞大正琴チャリティーショーと十一月十日(日)の文化祭「民謡の集い」が文化ホールで行われました。

各会派の活動としては、六月一日(土)大正琴の大会が四街道市文化センターで行われ、十一月三日(日)永治プラザ祭りに永謡会が参加、三味線合奏と唄を披露。十一月十六日(土)小林公民館祭りに飯塚会が参加、唄と三味線合奏を披露。十二月一日(日)マリ&ショーイチと仲間達クリスマスライブに小林公民館で飯塚会が参加出演。文化ホールに来られない方、初めて民謡を聞かれた方から良かったとの沢山の声を戴きました。民謡は腹の底から、また、自声より一段高く発声する唄が多く健康には良いと言われている。



歌謡連合会

稲村 清子

歌は心を癒し多くのひととの、つながりを深めてくれます。又ストレスの解消にもなり、若さを保つ秘訣ともいえるかもしれません。

楽しく歌うことは健康な暮らしへと繋がり、ひいては市民の皆様の活発な活動を支える文化の向上の基礎にもなりうると思います。今年度の文化祭の『歌謡の集い』に於いては、参加者百人を数え、さらに恒例の岩澤弘子先生によるワンポイントレッスンも好評で、大変盛り上がる事が出来ました。今後も皆様とともに歌う楽しみを続けていきますので、一層の御支援御協力をお願い申し上げます。



将棋連合会

大脇 孝夫

囲碁は打つといいますが、将棋は指すです。石と駒の違いからでしょうか。駒には名称があり、一段目には、玉、金、銀、桂、香、と貴重品の名が冠され、次に将、馬、車といった戦に関する語が続いています。二段目は飛車、角行、といった最強の駒。三段目には歩兵という弱いけれど一番数が多い駒が並んでいます。裏側には金の崩し字が書かれ、敵陣に入ると金に出世します。また飛車と角行の裏は竜王と竜馬で更に強くなります。こうした初期配置から交互に一手ずつ指すことにより奥深い世界が現れます。プロ棋士が存在する程です。皆さんも如何でしょうか。



囲碁連合会

松井 宏

「碁は省略の芸術か」、一局の碁には私達人生の色々な事が凝縮されている気がする時がある。「布石を打つ」、「先手を取る」、「地を固める」、「苦しい局面をしのぐ」、「捨て石にする」、「一手筋が良い」、「打つ手が無い」、「一目おく」等々碁を知らない人でも使うような言葉が沢山あるように、碁を打つと私達の人生における色々な事象と同じような局面に立つことがある。そこで思考したり、迷ったり、瞑想にふける所が楽しい。

碁は要するに地(ジ・場所)取りのゲームである。碁盤の縦横の線が交差しているところを目(メ)と言い、その集まりを地という。黒白交互に打つので相手より先に要点に打たなければならぬ。無駄な一着を打っていると、相手に先行されてしまう。同じ目数の地を囲うにしてもできるだけ無駄な手を省いて少ない手数で囲むのが効果的である。従って「碁は省略の芸術である」という人もいる。



舞踊協会

和田 敏子

「仲良く楽しく美しく」をモットーに六つの流派により六月十五日「舞踊の彩典」に向けて稽古を重ねております。

皆様によく聞かれることは、「踊りは脚、腰丈夫になるでしょ」と。確かに繊細な動きは見た目には穏やかに見えますが、実は全身を使っているエクササイズ、特に腰、下半身を使う動きが多いため筋肉を鍛える事ができ、踊ることによって忙しい日常から一時的に解放されストレスや疲れの発散にもつながり、多くの健康効果をもたらす踊りに、これからも会員一同益々精進して参ります。



短歌連盟

本間 百々代

印西市短歌連盟の淵源は、昭和四十五年二月、斎藤茂吉の高弟で、当時、短歌結社「歩道」を主宰していた佐藤佐太郎の来町です。佐太郎の利根川を詠った水辺(すいへん)五首が毎日新聞に掲載されました。四月には第一回町民短歌会が開催され、歌集「印西短歌」(現在五四号)は、昭和四十六年に発行され、今に続いています。

本連盟は、水辺、山百合の二短歌会よりなり、各短歌会では毎月一度、歌会を開き、また、別に陽春及び秋の市民短歌大会を開催しています。参加をお待ちします。



茶道連盟

五十嵐まゆみ

今回は新年床の間に飾るかけ柳(結び柳)についてお話ししたいと思います。

まず、なぜ柳を使うのかと言え、古来中国では旅立つ人に無事を祈って結んだ柳の枝を送る習わしがあったそうです。その故事にちなんで新年は新しい年の旅立ちということである年の無事を祈って柳を飾る様になったそうです。

又、裏千家では柳を結んで使いますが、結ぶようになったのは十一代の家元玄々斎が正月に宮中に伺い、頂いた柳を持ち帰るのに地面に着かないように結んだのが由来と言われている。下写真真は床の間に柳を結んで飾った写真例です。



華道連盟

大野 容子

四季の移ろいにそれぞれの花が咲く日本に、花を愛でる感性が育ち、生け花の文化が生まれるのは、自然なことだったかもしれません。その歴史は飛鳥時代に遡り、神仏へ花を供えた風習から始まるようです。

時代は移り、桃山時代に池坊が立花の様式を定め華道の礎を作り、以降江戸時代にかけて生花の骨格となる形態がとられる等しそれぞれの基本に準じた創造の中で多くの流派が生まれ、自然と調和し心の平穏と精神の修養が受け継がれ現代にいたります。

日本人の感性とおもてなしの精神をもって華道に励みたいと思います。



邦楽邦舞協会

渡邊 俊子

三年に一度の公演、第十二回「邦楽と邦舞」を、八月四日に印西市文化ホールで開催致しました。今回は、この公演を一つの目標に二年前に発足した「邦楽邦舞こども教室」の子ども達も出演、三歳から九〇歳までの賑やかな舞台となりました。公演にあたり、大道具・特設花道の設営・衣裳・かつら等、多くのスタッフの皆様の助力添えをいただきました。

一月一日には第三回「邦楽囃子体験講座」を開催。島村聖香先生のご指導の下、「三番叟」「花見踊り」を合奏出来るまでになりました。今後も印西市の邦楽と邦舞の普及に努めて参ります。



書道協会

岩井 義春

書道は幼い子供から高齢者まで、年齢の枠を超えた幅広い年代で、学ぶことが出来る奥深さがあり、パソコンでは表現できない、書体の変化を楽しんでみてはどうでしょうか。

協会の活動としては二本の柱を中心とし、秋には公募展の文化祭に参加し、一月には恒例としている、会員による書道展と、第三部会の小中学校生による書き初め展を開催し、書道の振興と継承に努めております。

時代とともに会員の高齢化が進み、活動の活性化を図るため、新たな戦力の参加を切望して多くの方のお力添えを賜りますようお願い致します。



能楽連合会

竹内 仁

数百年に亘り誦い継がれてきた「謡曲」は、どこに人を引き付ける魅力があるのでしょか。

謡曲は、源氏物語・平家物語や仏典・漢詩・昔の民謡など豊富な素材を土台に、美しい文章を連ねて出来ています。難解ですが、これまた不思議に引き込まれる節回し・リズムで綴られ、姿勢を正して誦い込むにつれて癒され、くつろぎを得、小さな充足感をもって誦い納めることが出来ます。

神仏や祖先への尊崇、天下泰平・五穀豊穰などの祈りの心が多くの曲に込められているためかも知れません。今ではこの優れた文化遺産に出会えたことを感謝しつつお仲間との稽古に励んでいます。



俳句連盟

柴崎 悦男

今年度は「いんざい俳句大会」と「文化祭俳句大会」を開催しました。文化祭展示会では会員三十名の俳句を多数の方々に観賞して頂きました。連盟には四つの句会があり、それぞれ楽しく活動しております。ご見学してみても如何でしょうか。広報いんざい「俳句欄」への投句もお待ちしております。

木下手賀野俳句会 毎月第三日曜
午後一時 中央公民館
向日葵俳句会 毎月第四日曜
午後一時 地域交流館
あけぼの句会 毎月第二月曜
午後十二時半 サザンプラザ
ファミリア俳句会 毎月第二金曜
午前十時 ファミリア館



園芸文化協会

青柳 文明

日本の伝統文化である『盆栽』は、今や全世界に広まり愛好されています。

活動内容は、毎月一回中央公民館にて勉強会を開催して、会員同士で知識・技術の向上に努めています。

日頃の成果の発表の場は、早春の「梅展」「夏季展」は中央公民館、秋季展は文化ホール(文化祭)にて展示しており(会場では苗木の無料配布も実施)また会員同士の交換会なども行っております。

興味のある方は是非一緒に遊んでみてはいかがでしょうか。



絵画協会

横山 護

二〇二五年四月よりコスモスパレット印西(中央駅前地域交流館)に待望の市民ギャラリーがオープンします。この工事の為、絵画協会の活動が一部中止となり大きな影響を受けました。

二〇二五年はオープニングパーティ(四月)に始まり、印西絵画展(六月)、秋の小品展(十月)印西市民文化祭(未定)と新市民ギャラリーでの展示活動が続きます。絵画協会が長く待ち望んだ新市民ギャラリーでの展覧会は期待が大きく、活動の幅が大きく広がる事が想定されます。

団体会員、個人会員合わせて約七十名の会員が、水彩、油彩、日本画を中心にこれらの展覧会を開催します。是非お越しください。

